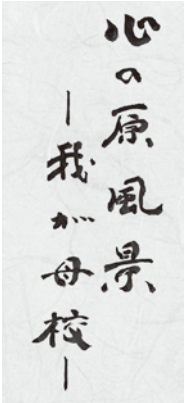

佐渡市立両津小学校

両津小学校は、明治34年の夷町と湊町の合併により両津町が誕生した翌年に、『両津尋常小学校』として設立されました。今年度で創立１１０年を迎え、卒業生は８５００人を越えています。

両津港から徒歩５分という両津地区の中心に位置する校舎は、平成22年度から２年間にわたる大規模工事により、堅固できれいに生まれ変わりました。そんな恵まれた環境の中、今年度は１７７人が楽しく学校生活を送っています。

当校では、長年あいさつ運動を行ってきました。平成９年にはＰＴＡの発案による『オアシスの日』を設定し、「おはよう」「ありがとう」「しつれいします」「すみません」が言える子どもの育成を目指し、地域を挙げて取り組んでいます。毎月３回あるオアシスの日には、児童会、教職員はもちろん、保護者や地域の皆様にも協力いただき、校区内全体で運動を展開しています。

中学校区連携オアシス運動

また、様々な教育活動にも多くの方から学習ボランティアとして協力をいただいています。総合的な学習の時間等の支援や、遠足・校外学習の引率補助などをお願いすると、すぐに何人かの方が快く参加してくれます。今年度は、夏休みに実施したサマースクールにも『学習お助け隊』として協力を呼び掛けたところ、保護者だけでなく民生委員の方も参加してくださいました。

今年度は創立１１０周年を記念し、創立記念日である５月25日に記念式典を行いました。当日は、１００周年以降の歴代校長先生とＰＴＡ会長を来賓にお招きし、代表として創立１００周年時に第25代校長としてお勤めいただいた臼杵國男様より、当時の様子についてお話をしていただきました。短い時間ではありましたが、子どもたちにとっても節目の年を実感できたのではないかと思います。

創立 110 周年記念式典

◆教育委員会学校教育課（両津支所内）☎23―4898

佐渡をジオパークに

ジオパーク、推進日記 ⑰

☆江（え）っ!?水の歴史って？（国中編）

佐渡の真ん中、国中にはジオパーク的見どころは無いのでしょうか？いいえ、そんなことはありません。国中にはたくさんの田んぼが広がっています。田んぼも立派なジオポイントの一つです。

田んぼでお米をつくるにはたくさんの水が必要です。その水は３００万年前から隆起してできた大佐渡、小佐渡の山々から流れ出し、国中平野にたどり着きます。この貴重な水を田んぼに送る水路のことを「江」といいます。この江、実は国中平野にクモの巣のように広がっています。丘陵にある江は、約４００年前の江戸時代に整備されました。佐渡の人々は改良を加えながら、これらの江を大事に利用してきたのです。

たとえば新保川を源流とする多数の江は、枝分かれを繰り返し、金井地区の千種、金井新保、貝塚、大和、吉井本郷まで張り巡らされています。

国中に見られる江の特徴は、水を「分ける」という点です。多い所では、１本の水路が６本に枝分かれしている場所もあります。このように水を分け、最小限の流水こう配で張り巡らすためにはとても高度な測量技術が必要です。

このように先人が改良を重ねながら築いてきた江をとおして周囲の田んぼを見渡すと、ただ整然と並んでいるように見えていた田んぼも違った風景に見えてきます。水をめぐる歴史から生まれた知恵で私たちはお米を作ることができるのです。

また、砂金を採るためにも江が利用されていました。次回は、西三川編として、砂金山で利用されていた江をご紹介します。お楽しみに！

※「江」は、農家にとって、とても大切なものです。見学の際は、注意して観察を行ってください。

▲出口が複数にわかれている国中平野の江。

◆教育委員会社会教育課　ジオパーク推進室（両津郷土博物館内）☎23―2101